

測線 C

測線 B

測線 D

測線 A

B-4

B-6

BP-2

B-5

B-3

B-2

調整池

B-7

BP-1

B-1

- ボーリング位置
- 既設ボーリング位置
- 弾性波探査測線























## 4.12 弾性波探査および解析結果

下表に弾性波探査測線をまとめる。

表 4.12-1 探査測線一覧表

測線名	測線長 ( m )	備 考
A	200	高密度弾性波探査測定・解析 ( 屈折含む )
B	230	高密度弾性波探査測定・解析 ( 屈折含む )
C	200	高密度弾性波探査測定・解析 ( 屈折含む )
D	150	高密度弾性波探査測定・解析 ( 屈折含む )
計	780	

### 4.12.1 解析 ( 弾性波屈折法 )

#### 1 ) 記録と走時曲線図

振源と測定地点間を波が伝播するのに要した時間を走時とよび、それをグラフ化したものが走時曲線である。測線毎に示した走時曲線図は、測定より得られた記録から初動走時 ( 発破時から換振器に最初に波が到達するのに要した時間 ) を読み取り、距離を横軸に、時間を縦軸に取り、起振点と換振器間の距離の関係をプロットしたものである。

記録には 1/100 秒毎に刻時線が刻まれ ( 4mm 間隔 )、これを目測によって 1/1000 秒まで読み取る。走時曲線図は距離を 1/500 の縮尺で ( 測点間隔 1cm )、時間を 2cm、1/100 秒の割合で目盛りする。波の伝播速度 = 距離 / 時間であるから、走時曲線の傾きの逆数が波の伝播速度を表わすことになる。

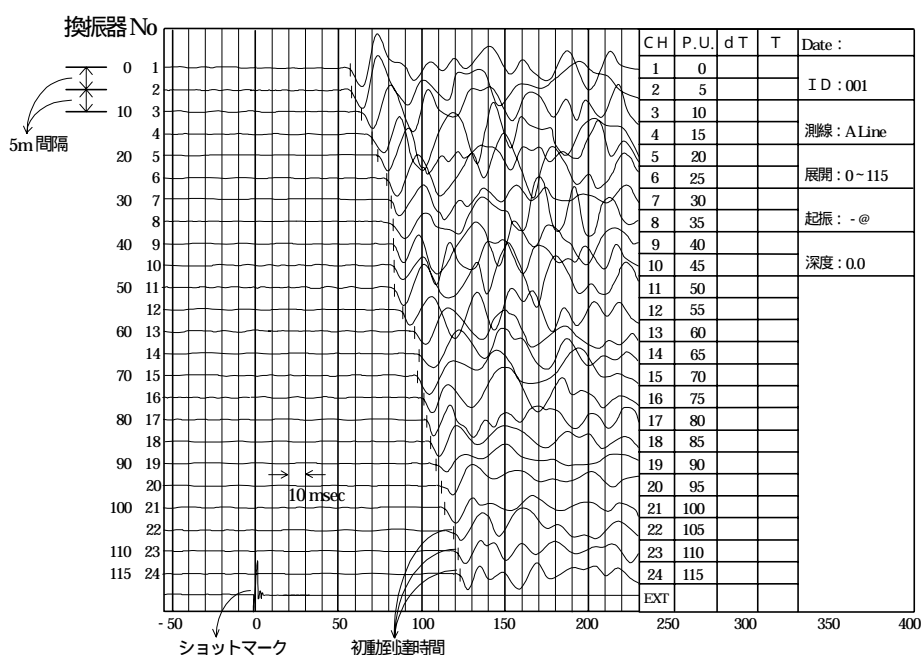


図 4.12-1 記録状況